

公式観光ガイド 2026

ロンドン塔

ロンドン · ~から 42.88€

https://tower-of-london.visit-tickets.com/ja/ ‹ 優先入場チケット & 公式料金



歴史 & エクスペリエンス

起源と歴史

征服王から始まる要塞の歴史

GOOGLE 4.7 ★★★★★ 119 605 レビュー

TIQETS 4.7 ★★★★★ 4 303 レビュー

ロンドン塔の起源は、**1066**年のノルマン・コンクエストにまで遡ります。ウィリアム征服王は、征服された都市に対する軍事支配を象徴し、住民に絶大な権力を思い知らせるために、この要塞を建設しました。当初は木造の砦でしたが、後に白亜色の石で覆われたホワイト・タワーが1078年に完成し、当時のロンドンの木造建築を凌駕する圧迫感ある存在となりました。この巨塔は単なる住居ではなく、抑圧と絶対王権の具現化として設計され、テムズ川沿いの戦略的な要衝から首都全体を見下ろす役割を果たしました。

中世を通じて、塔は複数の段階で拡張され、リチャード**1**世やヘンリー3世、エドワード1世などの国王によって強化されました。同心円状の二重の城壁と堀が追加され、防御構造は洗練されていきました。しかし、その役割は多岐にわたりました。武器庫、金庫、王家の動物園、さらには貨幣局としても機能し、英国の政治的・経済的中心地としての重要性を示していました。特に**12**世紀に設立された王家の動物園では、北極熊やライオンといった異国情緒あふれる動物が飼育され、外国からの贈答品として扱われていました。

テューダー朝時代に入ると、ロンドン塔は主に国家監獄としての側面を強めました。失脚した貴族や政治的な敵対者が収容されるようになり、「塔へ送られる」という表現は「投獄される」ことと同義語となりました。エリザベス1世も姉のメアリー1世によってここに収容された過去があります。宗教プロパガンダにより広まった処刑の神話とは異なり、塔内の処刑は非常に稀であり、大多数の囚人は隣接するタワーヒルで公開処刑されました。この暗黒の歴史は、塔の神秘的かつ恐ろしい評判を後世に残しました。

19世紀後半、ヴィクトリア朝の建築家アンソニー・サルビンとジョン・テイラーによる大規模な修復が行われ、中世以降に建造された構造物が取り除かれました。これにより、塔は中世の外観を取り戻し、今日の歴史的景観が確立されました。第二次世界大戦中には再びスパイの収容所として使用され、戦後の修復を経て現在のような博物館へと変貌しました。ユネスコの世界遺産に登録されているロンドン塔は、英国の複雑な歴史と王朝の変遷を物語る生きた証人です。

体験

西門を通り抜け、古代の石畳を踏む瞬間、訪れ者は現代の喧騒から切り離され、中世の空気の中に引き込まれます。威厳あるビーフィーター（イェーメン・ワーダーズ）の姿が目に入り、彼らの厳かな敬礼が、ここが単なる観光地ではなく、何世紀にもわたる権力と秘密の舞台であることを思い出させます。光が狭い通路や急階段を照らし、影が深みを増す中で、過去の囚人たちの足音が耳元で響いているような錯覚に陥ります。

ホワイト・タワーへの昇りは、物理的な挑戦であると同時に、歴史的な旅路です。螺旋階段を上りながら、窓から差し込む光が白亜の壁に反射し、王冠の宝石への期待が高まります。城壁を歩けば、テムズ川の流れとタワーブリッジの近代美が広がり、時間を超えた対比を目の当たりにできます。カラスが自由に羽ばたく姿は、伝説が生きていることを示唆し、訪れ者の心を静寂と畏怖の感情で満たします。



訪問の準備

実用的な情報

住所
タワーハムレッツ地区 ・ 地下鉄：タワーヒル（DL）またはロンドンブリッジ（J/N）。公園方面へ出口。

営業時間
季節や学校休暇により変動します。予約時に「王冠の宝石」の具体的な開館時間を必ずご確認ください。

料金
年齢に応じて子供無料の場合あり（バリエーションをご確認ください）。行列を避けるためにオンラインで予約してください。

所要時間
白塔、城壁、そしてストレスなく王冠の宝石を鑑賞するために、少なくとも2時間30分から3時間ご予定ください。

写真撮影
屋外および屋内の大部分のエリアでは写真撮影可ですが、セキュリティ上の理由から王冠の宝石展示室では厳しく禁止されています。

対象客層
家族連れや歴史愛好家に適した施設です。白塔の急階段にご注意ください。小さなお子様や移動に制限のある方には不向きです。

アクセス方法

アクセス & 交通手段

🗺️ バス

: Minories — 6 min à pied

ヴィクトリア駅 (28 min) · タワーゲートウェイ (9 min)

🚗 **Voiture**

Victoria Station (20 min) · Tower Gateway (4 min)

🚲 **Santander / Vélo**

Victoria Station (25 min) · Tower Gateway (3 min)

🚶 **À pied**

Tower Gateway (4 min) · London Bridge (9 min)

LOCALISATION

Où se trouve ロンドン塔 ?



📍 St Katharine's & Wapping — EC3N 4AB ロンドン

🌐 51°30.488′ N, 0°4.558′ O



組織

要塞の構造と見学ルート

外郭城壁と庭園

入口から入ると、まず広々とした庭園と外側の城壁が見えてきます。ここでは、自由に行き来できるカラスを観察でき、伝説に触れることができます。城壁の上からは、ホワイト・タワーとタワーブリッジを含む素晴らしい眺望が得られ、写真撮影にも最適なスポットです。また、かつての王家の動物園があった場所でもあります。

ホワイト・タワー内部

要塞の中心であるホワイト・タワーには、武器室や礼拝堂が含まれています。武器室では、中世から近代までの鎧や剣が展示されており、騎士道の精神を感じることができます。礼拝堂では、静謐な雰囲気の中で、歴史的な装飾を鑑賞できます。ここは、要塞の防御構造を理解するための重要な場所です。

王冠の宝石展示室

最も注目を集めるのは、王冠の宝石が展示されている部屋です。イギリス王室の権威を象徴する豪華な宝飾品が、厳重に警備されたケースに収められています。光の下で輝くダイヤモンドと宝石は息を呑むほど美しく、訪れ者の心を奪います。ただし、写真撮影は禁止されていますので、目でしっかりと記憶に残してください。

アクセシビリティ

♿ 車椅子アクセス

ホワイト・タワーへの適応による部分的アクセスが可能ですが、中世の階段により制限があります。

👪 ファミリー向け

遊び心のあるアクティビティがあり家族向けに適していますが、階段や城壁では注意が必要です。

🎧 オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語



必見スポット

選 択

見逃せない歴史的ハイライト

01 王冠の宝石展示室

王冠の宝石 (Crown Jewels)

英国君主制の象徴である王冠の宝石は、何世紀にもわたる歴史を持つ宝飾品のコレクションです。即位式で使用される王冠や scepter が展示されており、その豪華さは言葉では表せません。特に、大きなダイヤモンドが輝く様子は圧巻です。

> 💡 これらの宝石は、厳重に警備されており、展示室での写真撮影は完全に禁止されています。これはセキュリティ上の理由だけでなく、宝石の保護のためでもあります。

02 ホワイト・タワー

ホワイト・タワー (White Tower)

1078年に建設されたホワイト・タワーは、ロンドン塔の核となる建物です。ノルマン建築の傑作であり、その巨大な白亜の壁は、当時の権力の象徴でした。内部には武器室や礼拝堂があり、中世の生活感を垣間見ることができます。

> 💡 この塔は、ウィリアム征服王の命令により建設され、ロンドンの木造建築を凌駕する存在として、臣民に恐怖と敬意を抱かせました。

03 各所

ビーフィーターによるガイドツアー

Yeomen Warders（ビーフィーター）によるガイド付きツアーは、公式のオーディオガイドよりもはるかに没入感のある体験を提供します。彼らは著名な囚人に関するグロテスクでユーモラスな話を共有し、歴史に命を吹き込みます。

> 💡 ビーフィーターは、歴史的な知識に富んだ専門家で、単なる警備員ではありません。彼らの話は、教科書では学べないユニークなエピソードを含んでいます。

04 内側城壁

内側城壁からの眺望

内側の城壁を歩くと、背景にホワイト・タワーとタワーブリッジを含む素晴らしいパノラマビューが広がります。朝の光は、中世の石の質感を捉えるのに理想的で、混雑のない最高の写真スポットです。

> 💡 正午頃は影が建築の詳細を隠し、訪問者が視界を遮るため、早朝の利用が推奨されます。

05

庭園

カラスの観察

塔内で自由に動き回るカラスは、英国君主制を象徴的に保護する伝説の具体的な思い出です。それらの存在は特別なケアによって保証されており、歴史の生きた詳細と言えます。威厳を保ちながら訪れ者に慣れている様子を観察してみてください。

> 💡 チャールズ2世に遡る伝説によると、カラスが塔を去ればイギリスは滅びるとされています。

06

ホワイト・タワー内

武器室 (Armouries)

ホワイト・タワー内の武器室では、中世から近代までの鎧や武器が展示されています。騎士たちが着用していた重装備や、精巧に作られた剣など、武人の世界を肌で感じることができます。

> 💡 一部の鎧は、実際に戦場で使用されたものもあり、傷跡が残っているものもあります。

07

ホワイト・タワー内

聖ジョージ礼拝堂

ホワイト・タワー内に位置する聖ジョージ礼拝堂は、静謐な雰囲気の中で歴史的な装飾を鑑賞できる場所です。ゴシック様式の要素が見られ、信仰心の厚さを伺わせます。

> 💡 この礼拝堂は、王室の儀式でも使用されていたことがあり、重要な歴史的意義を持っています。

08

外部

タワーヒルからの眺望

塔の外、タワーヒルからは、要塞全体のスケールを把握できます。かつてここで多くの処刑が行われたという歴史的背景を知りながら眺めることで、より深い感慨を得られます。

> 💡 タワーヒルは、公開処刑の主要な場所であり、塔内の処刑数よりもはるかに多くの犠牲者を出しました。

アドバイス

スムーズな訪問のための秘訣

TIMING
開場の15分前に到着し、西門での待ち時間を避けてください。ピーク時は60分以上待つこともあり、早めの入場が快適な鍵です。

BILLET
オンラインで事前に予約し、行列を避けましょう。子供無料の場合もあるので、バリエーションを確認してください。

PARCOURS
最初にホワイト・タワーを巡り、防御構造を理解してから、外側の城壁や王冠の宝石へ向かうのが効率的です。

PHOTO
内側城壁からの眺望は、ホワイト・タワーとタワーブリッジを背景に撮影するのに最適です。朝の光を利用しましょう。

PAUSE
見学後は近くのボロ・マーケットで食事を楽しみましょう。新鮮な食材や地元の特産品が揃っています。

ENFANTS
小さなお子様連れは、白塔の急階段にご注意ください。遊び心のあるアクティビティもありますが、移動に制限のある方には不向きな部分もあります。

AUDIOGUIDE
フランス語、英語、スペイン語のオーディオガイドが利用可能です。ビーフィーターのツアーと組み合わせることで、より深い理解を得られます。

CONFORT
敷地は広大で不揃いな石畳が多いので、滑り止めソールの快適な靴を履いてください。ハイヒールや硬い靴は避けましょう。



よくある質問

よくある質問

ロンドン塔の入場券は事前に予約する必要がありますか？

はい、西門での30〜60分の待ち時間を避けるため、オンライン予約は強く推奨されます。これにより、定員制限のあるビーフィーター（Yeomen Warders）によるガイド付きツアーへの参加も保証されます。

キャンセル可能なのはいつまでですか？

キャンセルポリシーは購入したチケットの種類によって異なりますが、一般的には訪問日の24時間前までに無料キャンセルが可能です。利用規約をご確認ください。これにより、隠れた手数料や手続き上のトラブルなく、全額返金を受け取ることができます。

現在プロモーションはありますか？

子供、シニア、グループ向けの割引料金があります。定期的にページをチェックし、季節限定オファーやタワーブリッジとの組み合わせチケットを確認して、予算を最適化し、ロンドンの象徴的な2つの名所を1日で満喫しましょう。

予約時にどの入口を選ぶべきですか？

西門（West Gate）は個人旅行者向けの本館入り口であり、ビーフィーターツアーの出発地点です。中央の吊り橋は組織された団体専用です。完全な自由度を得るために西門をお選びください。

ロンドン塔の観光にはどれくらい時間がかかりますか？

白塔、王冠宝石、城壁の探索を含む完全な見学には、最低でも2時間半から3時間お見積もりください。歴史的なイエメン・ワーダーズによるガイド付きビーフィーターツアーに参加する場合は、さらに30分を追加してください。

ご存知ですか？

エピソード＆トリビア

処刑に関する神話

16世紀の宗教プロパガンダにより広まった誤解とは異なり、塔内での処刑は非常に少なかった。**20**世紀以前に塔内で処刑されたのは7人のみであり、大多数は隣接するタワーヒルで公開処刑されました。

未来の女王の収容

エリザベス**1**世は、姉のメアリー1世によって女王になる前にここに収容されました。この出来事は、「塔へ送られる」という表現の起源となり、投獄を意味する同義語として定着しました。

ノルマン建築の象徴

ホワイト・タワーは**1078**年、ウィリアム征服王の命令により建設されました。白亜色の巨塔は、当時のロンドンの木造建築を凌駕し、ノルマン軍事的支配を臣民に常に思い知らせる役割を果たしました。

ヴィクトリア朝の修復

19世紀、建築家のアンソニー・サルビンとジョン・テイラーは、中世以降の構造物を取り除き、塔の中世の外観を復元しました。これにより、今日の歴史的景観が確立されました。

博物館周辺

ロンドン塔の周辺は、歴史と現代が交差する魅力的なエリアです。まず目に入るのが、テムズ川を跨ぐ象徴的なタワーブリッジです。ガラス張りの空中ギャラリーからは、ロンドンのパノラマビューを楽しむことができます。食事を求めるなら、近くにあるボロ・マーケットがおすすめです。新鮮な食材や地元の特産品が並び、見学後のグルメ休憩に最適です。さらに、海事史に興味がある方は、**HMS**ベルファストやロンドン・ドックランズ博物館を訪ねてみてください。これらの施設は、ロンドンの商業的・軍事的過去を深く理解するのに役立ちます。夜には、照明された塔と橋の景色を眺めながら、ザ・タワー・ホテルなどでリラックスするのも良いでしょう。



ロンドン塔を訪れることは、単なる sightseeing を超え、英国の魂に触れる体験です。石の冷たさと宝石の輝き、そしてビーフィーターの話す物語が織りなす情景は、記憶の奥深くに刻まれます。歴史の重みを感じつつも、その美しさに魅了されるこの場所は、一度訪れたら忘れられない感動を残します。ぜひ、早朝の静けさの中で、その真髄を味わってください。